

平成30年6月15日現在

機関番号：33929

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12848

研究課題名(和文)現代日本におけるメディア横断型コンテンツに関する発信および受容についての研究

研究課題名(英文) Research on transmitting and acceptance of cross-media contents in contemporary Japan

研究代表者

大橋 崇行(Ohashi, Takayuki)

東海学園大学・人文学部・准教授

研究者番号：00708597

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：現代のメディア文化は、小説、漫画、アニメーション、映画、インターネット上の動画サイト等をはじめ、同じ作中人物や物語を持った作品が、複数のメディアに跨がる形で発信されることに大きな特徴がある。

従来の研究では、この中のどれかひとつのメディアに焦点を当てて考察を行ったり、メディアミックスの観点から分析したりすることが通常であった。

本研究はこうした現状に対して、多メディア展開する現代の作品を、メディアを横断して分析・考察する方法を探り、新たな人文科学研究のあり方を示すこと目指したものである。

研究成果の概要(英文)： A feature of contemporary media culture is that a single work is transmitted simultaneously across multiple media. For example, it is a novels, mangas, animations, movies, video sites on the Internet, and so on.

However, in conventional research, it was usual to focus on one of these media and analyze it from the perspective of "Media Mix".

In response to the current situation of such research, this research explores ways to analyze and examine such modern media culture, across multiple media. By doing this, we aimed to build a new way of humanities research.

研究分野：日本文学

キーワード：ライトノベル メディア マンガ 小説 翻訳 アニメーション 児童文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 概要

本研究の研究代表者・研究分担者・連携研究者は、研究開始当初の時点まで、2006年に活動を開始し、横浜国立と目白大学で行われている「ライトノベル研究会」での研究を通じ、一柳廣孝・久米依子編『ライトノベル研究序説』(青弓社、平成21)、『ライトノベル・スタディーズ』(青弓社、平成25)などで各章の執筆を担当して、一定の評価を得てきた。本研究はこれらの成果を土台として、ライトノベルについての研究をマンガ、アニメーション、映画、インターネット上の動画や言説、児童文化との接続、海外での翻訳・受容なども含めた複合的なメディア文化についての研究へと発展させ、それらのあいだにどのような断続があるのかについて分析・考察を進めることで、新たなメディア文化の研究方法を探るものである。

特に本研究を始めるにあたって問題としたのは、メディア文化の国際性と、複数メディアに跨がるテキストについての研究方法の2点である。

(2) 現代日本のメディア文化における国際的な広がり

漫画、アニメーション、ライトノベルなどに代表されるメディア文化は次々に世界に輸出されており、現代日本文化の中でもっとも海外への発信力が高い領域のひとつであると言える。

しかし河野至恩が『世界の読者に伝えるということ』(講談社、平成26)で指摘したように、これらの文化は海外において、日本国内と同じように受容されているわけではない。それぞれの文化の枠組みや、日本文化に対する見方にしたがって受け入れられていることになる。そこで、まずはこれらのコンテンツ文化がどのように翻訳され、受容されているかについての実態をより正確に把握することをめざした。その上で、どのようにすればこれらの文化についての研究を海外に向けて発信できるのかを、再考する必要があった。

(3) メディア文化に関する横断的研究の必要性

しかし、こうした海外への発信は容易なことではない。なぜなら、現代のマンガ、アニメーション、ライトノベルなどの作品はメディアを越境する形で展開することが多いため、その実態を捉えるためにはメディアを横断する形で分析・考察を行うことが必要となるためである。

一方でこれらの分野に関するそれまでの研究は、たとえばマンガはマンガ研究、アニメーション論はアニメーション研究、ライトノベルはライトノベル研究という単一メディアの枠内で進められることが一般的だった。また、物語をテキストとして分析する小

説の研究との往来がほとんどなく、複数メディアにまたがる研究においても従来型のメディアミックスの視点から研究が行われるというのが通常になっていたという問題があった。そうした現状を克服するための道筋を考えることが、本研究を開始した背景となっている。

2. 研究の目的

(1) 概要

本研究は、研究代表者・研究分担者・連携研究者によるこれまでの研究成果や、研究の背景を踏まえ、まずはライトノベルを中心に据えた上で、それらのテキストがマンガやアニメーションなどに多メディア展開されたものを一つの作品群として捉えて、複合的に分析・考察を進めていく方法を探ったものである。

具体的には、以下の2点を明らかにすることを目的とした。

(2) ライトノベルを中心とした海外での受容と翻訳状況の分析

現代日本のメディア文化が、国内だけでなく、ヨーロッパ諸国や韓国や中国、台湾、タイなどを中心としたアジア圏において、どのように受容されているのかについて、その様相を明らかにすることをめざした。

具体的には、ライトノベル作品の翻訳状況と他メディア展開のあり方、また、それらが現地のメディア文化とどのような関係にあるのかについて明らかにすることを目的とした。

(3) メディア横断型コンテンツに関する分析理論についての研究

メディアを横断する形で展開する現代のメディア文化について、その現状をより実態に即した形で明らかにしていくための分析方法の確立を目指した。特に1980年代の少女小説や、1990年前後の雑誌メディア、あるいは現代のインターネット上で投稿されている動画と文章メディアとの関係などを対象とし、それらの具体的な分析に基づいて、複合的に研究を進めていくための方法を探ることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 海外翻訳ライトノベルの調査・収集と、翻訳の具体的な分析

ライトノベルを中心に、マンガ、アニメーション、インターネット上の動画、映画などに他メディア展開された作品について、海外で翻訳されているテキストの調査・収集を行った。

またそれらの翻訳作品の具体的な様態について、日本のコンテンツの何が翻訳可能で、何が翻訳しにくいのかという視点から分析を行った。

(2) 複数メディアにまたがる言説研究

テキストにおいて紡ぎ出された物語そのものについて、また、物語を紡ぐ表現そのものがどのような問題を持っているのかについて、相互のメディア間に見られる差異と共通性とをそれぞれのメディアの特性を踏まえながら抽出し、その上で複数のテキストを分析的に読み解いていく研究を行った。

特に、1980年代の少女文化、および2010年代のインターネット動画とそれをイメージした小説群について研究代表者の大橋崇行が、また、児童文化と現代のメディア文化との接続について、研究分担者の大島丈志が中心となって担当した。その際、それぞれのテキストが多様なテキストをどのように取り込んで編成されたのかを考える言説編成過程の分析方法によって研究を進めた。特にリンダハッチオン著、片淵悦久ほか訳『アダプテーションの理論』(晃洋書房、2012年)を日本のメディア研究においてどのように応用していくかという視点も踏まえながら、新たな研究方法の構築を目指した。

(3) 雑誌メディアを対象とした新しいメディア論

分担研究者の山中智省が中心となり、1988年に創刊された雑誌『ドラゴンマガジン』や、徳間書店が刊行していた「アニメージュ文庫」などについて調査・収集を行った。

その際、既存の文学研究やメディア研究の方法だけでなく、雑誌の成立とそこに関わったライトノベルやアイドル文化、ゲーム文化、コスプレ文化の関係性をオーラルヒストリーの調査・収集を踏まえて分析を行うことで、新しいメディア論の構築をめざした。

4. 研究成果

(1) 海外における日本のメディア文化の受容について

タイをはじめとした東南アジア圏、およびアメリカ、フランス、中国における翻訳と受容の問題を中心に研究を行った。

研究分担者の山中智省と研究協力者の太田睦に資料収集を依頼し、研究成果である大橋崇行・山中智省編『ライトノベル・フロントライン』(青弓社、全3冊)において、太田睦「ライトノベル翻訳事情」を連載しているほか、山中智省が学術論文の形で、タイにおける日本のメディア文化受容状況を具体的に報告している。

また、ジョン・テ・ホ氏に依頼して、日本近代文学会東海支部第58回研究会で韓国における日本のメディア文化の受容状況について報告してもらった上で議論を行い、その具体的な翻訳の様相を明らかにした。

(2) メディア文化資料の調査・収集

研究分担者の山中智省を中心に、1988年創刊の雑誌『ドラゴンマガジン』のほか、この時期に徳間書店が刊行していた「アニメージュ

文庫」などの資料を収集した。この中には、国立国会図書館や東京都立多摩図書館などをはじめ、公共図書館等では所蔵がなくなっている資料が数多く含まれており、今後、本研究で行った内容が展開されていく上で非常に貴重な資料群である。

また、研究協力者の太田睦とジョン・テ・ホ、研究代表者の大橋崇行で、海外に翻訳された日本のライトノベル作品の収集を行っている。

これらの成果についてはデータベース化等の予定はないが、研究代表者、研究分担者の所属研究機関において、できる限り閲覧可能な状態にしていく予定である。

(3) メディア化する児童文化

研究代表者の大橋崇行が学術論文を執筆し、現代の日本の中学生・高校生がどの程度ライトノベルに触れているのかについて、その最先端の状況を明らかにした。

また、大島丈志が、宮沢賢治作品のアニメーション化や、「児童文庫」と呼ばれる小学生向けのエンタテインメント小説についての研究を行い、如月かずさの作品を中心にライトノベルと現代の児童向け小説とがどのように接続しているのかを明らかにした。

この他、研究成果である図書『ライトノベル・フロントライン2』において、特集「児童文学とライトノベルのあいだ」を組み、荻原規子についての論考や「朝の読書」運動についての論考などから、現在の児童文化・児童文学とメディア文化との関係を、多角的な視点で明らかにした。

(4) 少年文化、少年小説とメディア文化との関係

1960年代における少年文化とマンガ文化、少年小説との接続について、研究を行った。具体的には、梶原一騎原作・川崎のぼる作画『巨人の星』(1966~71年)について、従来の研究で行われてきたマンガ研究やマンガ史の文脈だけから考えるのではなく、同時代の少年向け野球雑誌や少年雑誌において編成された言説が、マンガ作品の中にどのように取り込まれていたのかについて、具体的に明らかにした。

また、特に『巨人の星』と佐藤紅緑『あゝ玉杯に花うけて』(1928年)との具体的な関係を、同時代の第一高等学校野球部と早稲田の野球部をめぐる関係から明らかにすることを通じて、1970年代以降のテキストを分析する際にも小説作品とマンガ作品との断続を考える上で応用可能な方法として示した。この内容は、国際学会 Japanese Studies Association of Australia(JASS)において、本研究の方法論的成果として口頭発表を行っている。

(5) 1980年代の少女小説と若者言葉・少女文化との関係

平成 27 年 5 月 31 日に行われた平成 27 年度日本近代文学会春季大会において、久美沙織、久米依子、倉田容子、嵯峨景子、大橋崇行の 5 名でシンポジウム形式のパネル発表を行った。これを受けて、(2)「メディア化する児童文化」の問題から発展させる形で、特に 1980 年代の少女文化についての研究を行い、その中で集英社コバルト文庫の隆盛と、当時の少女文化との関係や、メディアによって形成されていく少女小説の作家像と作品との関わりが明らかになった。

そのため、研究成果の書籍である『ライトノベル・フロントライン 1』(青弓社、2015 年)において特集「少女小説 1980」を組んで論文を掲載した。その際、研究代表者の大橋崇行が、当時の雑誌メディアで編成されていた若者言葉と少女小説の文体との関係について明らかにしている。また、このときの研究発表が、嵯峨景子『コバルト文庫で迎える少女小説変遷史』(彩流社、2016 年)に接続しており、昭和 40 年代から 50 年代にかけての少女小説の具体的な問題点が数多く明らかになった。

(6) 雑誌『ドラゴンマガジン』の創刊と同時代のメディア文化との関係

研究分担者の山中智省を中心に、1988 年に創刊された富士見書房の雑誌『ドラゴンマガジン』についての研究を行った。

この時期のマンガ、アニメーション、ゲーム、ライトノベルから、アイドル文化、コスプレ文化に至るまで、この雑誌において編成されたさまざまな言説の関係性を「ビジュアル・エンターテインメント」という視座から明らかにした。

また、創刊時の具体的な状況をオーラルヒストリーとしてアーカイブし、研究成果の図書『『ドラゴンマガジン』創刊物語 狼煙を上げた先駆者たち』(勉誠出版)にまとめている。本書においては従来のライトノベルについての知見では論じられなかった多く問題点が示されているだけでなく、こうした多様な文化の交わりを研究として扱っていく上での新しい方法として提示したものであり、本研究における大きな成果のひとつだったと言える。

(7) メディアミックス から メディア横断型コンテンツ の分析へ

たとえば小説がマンガや映画、アニメーション作品へと展開していくような、原作となるテキストがあり、それが他メディアへと編成されていく旧来型のメディアミックスではなく、複数のメディアに同時進行で次々に展開していくメディア横断型コンテンツをどのように分析、考察していくのかについて、その方法論の研究を行った。

まずはメディアミックスについて、研究成果である『ライトノベル・フロントライン 3』において特集「メディアミックスの現

在」を組んでいる。研究分担者の山中智省のほか 6 名の執筆者に、アニメーションやゲーム、音楽といった現代のメディア文化にどのような問題が見られるのか、それぞれの領域ごとに論じた。

その上で、新たな研究方法の構築としては、テキストを言説として捉えてその編成過程を分析していく言説研究の研究方法を基本とした。その上でリングハッチオンによる「アダプテーション」についての理論(2006)などを参照しながら、複数のテキストにみられる相互の関係性そのものを読み取るようにする研究を行っている。具体的には、研究代表者の大橋崇行が行った、前掲の JASS における研究発表がそれに当たる。

また、山中智省がオーラルヒストリーによって 1988 年前後の雑誌創刊の状況を明らかにしている。

このように本研究は、日本のメディア文化研究の最新の状況を踏まえつつ、そこでは今まであまり見られなかった多くの方法を用いて進められており、今後、この領域の研究が進められていくに当たって、多くの視座を示したものだと言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

大橋崇行、中学生・高校生による読書の現状とその問題点 ライトノベルの位置と国語教育、読書指導、東海学園大学研究紀要 人文科学研究編、査読無、21 巻、2016、9-21

山中智省、タイに広がる日本のコンテンツ文化 ライトノベルの翻訳出版をめぐって、滋賀文教短期大学紀要、査読無、18 巻、2016、49-59

大島丈志、アニメ化される「風の又三郎」、日本児童文学、査読無、62 巻 5 号、2016、56-59

山中智省、物語を魅せる“奏者”、繋ぐ“走者” アニメ『とらドラ!』と岡田磨里、ユリイカ、査読無、718 号、2018、117-125

[学会発表](計 7 件)

久美沙織、久米依子、倉田容子、嵯峨景子、大橋崇行、少女たちのいまを問う 1980 年代の少女小説とジェンダー、平成 27 年度日本近代文学会春季大会、2015

田島悠来、中川裕美、村木美紀、山中智省、出版と読書の過去・現在・未来 若者層向け小説をめぐる動向から考える、日本出版学会 2016 年度秋季研究発表会、

2016

山中智省、アニメ文化が育んだ文庫レーベルの”位置” 「アニメージュ文庫」からみえるもの、日本近代文学会東海支部第58回研究会、2017

大島丈志、接点としての児童文学 如月かずさ作品を軸に、日本近代文学会東海支部第58回研究会、2017

山中智省、『ドラゴンマガジン』の特集記事にみる内容的特徴と方法論 読者を惹きつけた”ビジュアル・エンターテインメント”、日本出版学会2017年度春季研究発表会、2017

大橋崇行、「野球」と軍国 日本の少年文化における野球言説についての考察、The 2017 Biennial Conference of Japanese Studies Association of Australia、2017

山中智省、「ライトノベル史」をめぐる冒険 その現状と課題、コンテンツ文化史学会2017年度大会、2018

〔図書〕(計 6件)

大橋崇行・山中智省編、ライトノベル・フロントライン1、青弓社、2015、176

大橋崇行・山中智省編、ライトノベル・フロントライン2、青弓社、2016、208

大橋崇行・山中智省編、ライトノベル・フロントライン3、青弓社、2016、172

小山正宏・玉川博明・小池隆太編、マンガ研究13講、水声社、2016、443(大橋崇行「第3章【文学論】 マンガ、文学、ライトノベル」所収)

西田谷洋編、文学研究から現代日本の批評を考える 批評・小説・ポップカルチャーをめぐる、ひつじ書房、2017、368(大橋崇行「ジャンルの変容と「コーギー・ミステリ」の位置 ライト文芸から見た現代の小説と批評」所収)

山中智省、ライトノベル史入門 『ドラゴンマガジン』創刊物語 狼煙を上げた先駆者たち、勉誠出版、2018

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等

<https://societyforlightnovel.wordpress.com/>

com/ (ライトノベル研究会 Society for Light-novel)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大橋 崇行 (OHASHI, Takayuki)

東海学園大学・人文学部人文学科・講師

研究者番号: 00708597

(2) 研究分担者

山中 智省 (YAMANAKA, Tomomi)

目白大学・人間学部こども学科・講師

研究者番号: 10742851

大島 丈志 (OSHIMA, Takeshi)

文教大学・教育学部・准教授

研究者番号: 90383215

(3) 連携研究者

一柳 廣孝 (ICHIYANAGI, Hirotaka)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号: 40247739

久米 依子 (KUME, Yoriko)

日本大学・文理学部国文学科・教授

研究者番号: 80216770

研究者番号:

(4) 研究協力者

太田 睦 (OHTA, Mutsumi)

ジョン・テ・ホ (JEON, Taeho)